

会 議 録

会 議 名	令和4年度 第1回 目黒区環境審議会
日 時	令和4年8月19日（金）午後6時30分～午後8時00分
会 場	総合庁舎本館1階E会議室
出 席 者	委員) 前田委員、湯浅委員、そうだ委員、橋本委員、比護委員、小林委員、古賀委員、 高橋委員、原委員、曾良委員、松原委員、土倉委員、 合計 12名
	区職員) 環境清掃部長、環境保全課長、清掃事務所長 合計 3名
傍 聴 者	3名
配 付 資 料	(事前送付) 資料1 目黒区環境基本計画及び目黒区地球温暖化対策地域推進計画の改定に向けた基本的方向について 中間のまとめ 参考資料1 環境をとりまく国内外の動向 参考資料2 目黒区の地域特性 参考資料3 気候変動の状況と目黒区の温室効果ガス排出量 参考資料4 現行計画の評価と次期計画で検討すべき課題 参考資料5 環境省「自治体再エネ情報カルテ（概要）」 参考資料6 施策の体系図（案） 参考資料7 目黒区環境基本計画の改定スケジュールについて（予定） 資料番号なし 令和3年度第2回目黒区環境審議会会議録 (机上配布) 資料番号なし 本日の議事についてのご意見 資料番号なし 目黒区環境審議会委員名簿・座席表
会 議 次 第	1 開会 2 議題 (1) 審議事項 目黒区環境基本計画及び目黒区地球温暖化対策地域推進計画の改定に向けた基本的方向について 中間のまとめ 3 その他 4 閉会
会 議 の 結 果 及 び 主 要 な 発 言	1 開会 (1) 新任委員紹介 以下(2)から(5)について、区において確認。 (2) 出席者数及び定足数の確認 (3) 会議公開の取扱いの確認 (4) 傍聴希望者の確認 (5) 配布資料の確認

2 議題

(1) 目黒区環境基本計画及び目黒区地球温暖化対策地域推進計画の改定に向けた基本的方向について 中間のまとめ

○事務局

(資料1、参考資料に基づき説明を行った。)

○会長

事務局から説明のあった内容を踏まえ、ご意見等があれば発言をお願いしたい。

○委員

今回の計画策定については、コンサルを入れて協議することだが、どのように選定され、どのような実績があるのか教えてほしい。

○事務局

業者選定委員会を編成し、業者から様々な提案をもらってその中から選定した。業者名は知識経営研究所。世田谷区、茅ヶ崎市での地球温暖化対策実行計画(区域施策編)、環境基本計画策定に携わった実績がある。

○会長

補足すると、既に専門委員会でコンサルを入れて4回の審議があった。専門委員会で議論された内容は、資料に逐一反映され、結論をきれいに文字起こししていたいていると思う。

○委員

非常に良くまとめられている。方向性としてこの方向で良いと思うが、2点だけ意見したい。

1点目は、2ページ目の「レジリエントとは」の定義について、「壊れてしまっても」だけでなく、そもそも「壊れない強さ」も重要になると思うので、そこも定義に含めてほしい。

2点目は、7ページ目のライフスタイルの省エネ化について、施策の方向性としてまずは省エネをしっかりと推進していこうということが非常に重要だと認識している。昨今の取組の中で、ZEBについて国交省も官公庁施設のZEB化について方向性を示されているところかと思う。この計画の中で、ZEBへの取組についても明確に示してほしい。

○事務局

1点目の「レジリエント」の定義について、ご指摘のとおり壊れてしまっても回復する強さと壊れない強さの両視点を含めるような形で表現を検討したい。

2点目のZEBについて、区有施設のZEB化について率先垂範してやっていくという意味でも積極的に取り組みたいという思いはある。7ページの「積極的な再生可能エネルギーの活用」のところで、「公共施設で率先的に導入していく」という記載はしているが、ZEB化のご意見いただいたので、どのような形で表現できるか、調整していきたい。

○委員

5年前の環境基本計画から、何が具体化されてきたのか。目黒区ならではの部分

があれば教えてほしい。

○事務局

前回の計画は平成 29 年度から令和 8 年度までの 10 か年計画だった。その計画では、基準年度に対して、7%の CO2 削減を目標に掲げており、現時点では達成しているが、その後のパリ協定等の世界的動向を受けて、2050 年のゼロカーボンシティ実現に向けて取り組んでいくこととなった。この、2050 年に向けてより高い目標設定を掲げて取り組んでいくという点が最も大きな違いと認識している。

計画改定にあたっての視点については、ゼロカーボンシティに向けた視点、気候変動に適応するレジリエントなまちづくりの視点、SDG s の視点が新しく加わったことが大きな違いになる。

目黒区ならではの部分については、宮城県角田市とエコの森をつくる活動をしており、将来的にはカーボンオフセットに活用していきたい。しかし、現状は、植樹した桜の木の発育が芳しくないので改善が必要と考えている。また、2050 年にゼロカーボンシティ実現を目指すことを表明したので、様々な取組を強化したいと思っている。

これまでになかった点としては、パートナーシップという視点で、様々な主体が連携・協力してゼロカーボンシティの実現を目指していくということである。様々な学習活動や若い世代の方々に環境保全を担ってもらいたいといった視点を新たに加えた。

○会長

私見だが、目黒区は都心でありながら緑が豊かだと感じており、そういった特性がしっかり反映されていると思う。10 ページの「身近なきものの保全と生物多様性の理解の促進」の記載はまさにそのとおりで、専門委員会でも多くの議論を重ね、目黒区ならではの生物多様性の視点が表現されていると思う。

○委員

1 点目は、計画の考え方について、3 ページに関連計画の記載があるが、レジリエントな視点、つまり自然災害への対応といったことを含めていくのであれば、「目黒区災害廃棄物処理計画」を盛り込むべきではないか。

2 点目は、4 ページの「計画の担い手」について、前回の計画では関係機関・団体という表現だったものが、パートナーシップに代わったという印象である。このパートナーシップとは、区として音頭を取りながら共同体として組織していくイメージか。

3 点目は、7 ページの「脱炭素型まちづくりの推進」のウォークアブルなまちづくりについて、現行の目黒区実施計画では祐天寺・学芸大学・自由が丘・中目黒駅周辺で実施していくといった方針だったかと思うが、駅以外のエリアに拡げていきたいという意思があるのか確認したい。また、ウォークアブルなまちづくりは国が主導的な施策ではあるが、10 年計画中の財政措置は問題ないのか。

4 点目は、10 ページの「みどりを感じるまち」について、様々な記載があるが、まとまった土地として生産緑地も重要かと思うが、言及しなくて良いのか。

5 点目は、12 ページの「清潔で美しいまちの維持」について、「引き続き支援を行っていきます。」という記述があるが、条例では区としてポイ捨てしないよう指導していくとなっているので、「支援」ではなく、より積極的な表現があつて良いのではないか。

6 点目は、13 ページの「パートナーシップで取り組むまち」について、参考資料 2 の 35 ページの出前講座実施回数に「子育てママのエコ入門」とあるが、色々な人を巻き込んでいこうという視点から考えると、言い方を変えると良いのではないか。

○事務局

1 点目の災害廃棄物処理計画について、この計画は災害が起きた後の行動計画になっている。一方、環境基本計画はより良い環境を目指していく位置付けなので、ここに追加することは難しいが、ご意見として承る。

2 点目のパートナーシップについて、これまで時間の制約により環境学習の場に参加できなかった方が、オンラインや動画の導入により、時間を気にせず学ぶことができる機会を提供していく、ということがパートナーシップに繋がるのではないかと考えている。また、地域住民を含めた環境教育活動や、区内企業による出前講座など様々なパートナーシップを拡げていきたいと考えている。現在、環境推進員養成講座・交流会を実施しているが、高齢の方が多く、若い世代に対しても活動を広めていければと思っている。

3 点目のウォークアブルなまちづくりについて、都市整備部としては、それぞれの地区整備計画の中で整備していきたいとの思いがある。環境基本計画としては、歩きやすい（＝ウォークアブル）という大きな方向性を示していくが、具体的には個別の地区整備計画等で推進していくことになる。

4 点目の生産緑地について、都市整備部の担当とどのような表現ができるか調整していきたい。

5 点目の環境美化活動の「支援」について、現在、スーパーズという組織があり、各事業者・団体が都合の良い日に中目黒駅等周辺の清掃活動を実施している。そういった団体に、活動のためのたすきや清掃用具を貸し出すなどの支援をしており、ここではそういった意味での「支援」である。ご指摘のとおり、ポイ捨ては条例による禁止行為であり、定期的なパトロールを実施している。規制の部分の記載が足りないというご指摘については、検討する。

6 点目の出前講座の「子育てママのエコ入門」が、こういった講座名であるために参加者を狭めてしまうのではないかというご指摘について、エコライフめぐろ推進協議会が主催している講座のため、本日のご意見を伝えたいと思う。

○委員

2 点目に伺ったパートナーシップについて、具体的なイメージが湧かないのだが、区民が自発的なボランティア活動をすることについて、応援していきたいという意味か。

○事務局

ボランティア等を通じて環境活動に取り組みたいという方を支援したいという思いがある。また、区としても事業者や区民と一緒に連携・協力して取り組む施策を展開したいという視点もある。

○委員

まだ認知していない様々な活動をしている団体や、計画の趣旨とは少し外れていても区として応援したい団体や事業者には、支援していきたいという意図は含まれるか。

○事務局

連携することによって、目黒区の環境の改善につながるのであれば、連携して取り組みたい。

○委員

6 ページの「2050 年のゼロカーボンシティ実現を目指して、広域連携などによる」ということ、非常に良いことだと思ふし重要だと思っている。目黒区だけでなく周辺区との連携によってエネルギーを上手くコントロールしないと達成は難しいと思う。また、ゼロカーボンも、ネットゼロなのか、プラスマイナスゼロにするのかということが重要になると思っているの、その辺がより具体化されていくことを期待している。

○事務局

目黒区の施策による効果だけでネットゼロを実現するのは難しいと思っている。東京 23 区の中で 20 区がゼロカーボンシティを目指すことを表明しているので、特別区との連携や、角田市や気仙沼市など友好都市との連携も考えていきたい。排出係数については、国のエネルギー政策に依存しているので、国の動向に注視しながら、東京都とも連携して進めていければと思う。

○委員

6 ページの「温室効果ガスの排出量を相殺する」について、具体的な細かいところは別途提示されることになると思うが、ある程度イメージがないとこういふことは書けないと思う。目黒区は緑が豊かと言いつつも、相当な吸収量が必要かと思ふし、角田市の施策も上手くいっていないという話なので、どのようなタイムスケジュールで数値目標をもって、バランスをとっていくつもりか。

○事務局

何をどのレベルで取り組めばどれだけ減るのかというのを区レベルで示すのは大変難しい。色々なシナリオを想定してこれから検討を進めていくが、排出係数がどれだけになるのかによっても異なる。専門委員会で、区内の都市公園の吸収量を出して、CO2削減の指標に使えないかという議論もあったが、目黒区の排出量からすると吸収量はかなり少ないという状況だった。森林の吸収効果で減らすのは難しいとすれば、水素やカーボンリサイクルといった最新技術に期待するしかなく、区としては、最新技術を普及啓発していくことで、区民に示していきたい。

○会長

専門委員会と改定部会の合同開催で議論したことを説明されてはどうか。

○事務局

地球温暖化対策地域推進計画については、改定部会を設置し、温室効果ガスの削減目標について、将来予測の 3 つのシナリオを立てて協議しているところ。具体的な目標値については、11 月の素案の段階で示していきたい。

○会長

改定部会と協力しながら検討を進めている。この環境基本計画だけでは、すべてを完結できないので、他の計画と連携していきながら、補完していくという認識でいる。

○事務局

ご認識のとおりで、環境基本計画全体では、カーボンニュートラルな未来をつくるという大きな方向性を示し、具体的な施策については、地球温暖化対策地域推進計画やその他の計画でお示ししていくことになる。

○委員

再エネ関係について、参考資料 5 の太陽光というのは建物系というのは住宅がメインかと思うが、場合によっては、熱利用ということも考えた方がいいと思う。そういった議論はなされているのか。もしくは、扱いやすい電力に絞った議論になっているのか。

○事務局

参考資料 5 の建物系には、住宅だけではなく、官公庁、病院、学校などを含んでいる。

○会長

専門委員会で確かにそういった議論はあった。太陽光のみでなく、幅広く色々なものを組み合わせるといったことをきちんと書いたほうが良いとなった認識でいる。6 ページのコージェネレーションシステムや自立・分散型エネルギーシステムの記載にそういった議論が反映されている。

○事務局

目黒区でも住宅用の再エネまたは省エネ設備への助成をしている。太陽光に限らず、家庭用燃料電池、蓄電池、ヒートポンプ、HEMS、また国の ZEH や都のエコ住宅補助審査が通ったものに上乗せ補助も行っている。太陽光だけとの考えはなく、実施計画にも掲げて続けていきたいと思っている。

3 その他

○事務局

今回は、令和 4 年 9 月 28 日（水）18 時 30 分から 2 時間程度で開催を予定している。今後の改定スケジュールについては、参考資料 7 で提示しているので、ご確認いただきたい。

○委員

前回会議録について、お詫びと訂正をしたい。4 ページに CO₂冷媒ヒートポンプ給湯器の説明をしているが、潜熱回収型の給湯器の説明になってしまっている。正確には、家庭用エアコンに使われている圧縮冷凍サイクルというヒートポンプのことで、CO₂冷媒で空気の熱を水に移してお湯にする仕組みのこと。ヒートポンプはここ 30 年くらいで非常に性能が良くなったので、そういう仕組みを積極的に導入しようという話だった。

○会長

どのように訂正すれば良いか。

○委員

「CO₂冷媒ヒートポンプ給湯器は～」以降の 2 行分削除いただきたい。「ヒートポンプの原理を利用して、空気の熱を効率良く水に移動させる仕組み。」などの表現に修正いただきたい。

○事務局

修正のうえ、次回差し替える。

4 閉会

○会長

本日の議事について意見や質問があれば、資料番号なし本日の議事についてのご意見に記入の上、8月26日（金）までに事務局へ提出していただきたい。

以上で令和4年度第1回目黒区環境審議会を閉会する。

以 上